

2013.6月

品質月報

Monthly Quality Report

6号 INDEX

6号 INDEX

PAGE 3 ……品質方針

PAGE 4 ……今月のトピックス

★ 今月のテーマは…
「プラント事故に学ぶ 効率化の代償」

PAGE 5 ……今月の品質状況

市場不良率推移

PAGE 6 ……今月の品質状況

市場不良発生状況(工程別、客先別)

PAGE 7 ……品質状況詳細

クレーム発生状況(クレーム発生推移、客先別)



SANSHIN GROUP



品質方針

サンシングループは、商社・開発技術・要素技術 これら3つの機能のシナジー効果と品質マネジメントシステムの効率的な運用により、お客様のニーズを満たす製品開発と安定的な製品供給をおこない、電機業界および社会へ貢献して参ります。

1. 事業活動において、いかなる場合も品質マネジメントシステムを厳守し、お客様に信頼される品質の提供につとめて参ります。
2. 企業活動に係る法規制およびその他の要求事項に関して、コンプライアンスの遂行を通し品質の向上につとめて参ります。
3. 各々のグループ会社および事業部において、事業活動に応じた品質マネジメントシステムの継続的な改善につとめて参ります。
4. 品質マネジメントシステムは、定期的な内部監査・マネジメントレビューをおこない、実態に沿った具体的な改善をはかって参ります。
5. この方針は文書化し、当グループのステークホルダーに対して開示をおこない、当グループの諸活動に関わるすべての人々によって一步一步、着実に具現化して参ります。

平成18年7月1日
サンシングループ
代表 石井宏宗



石井宏宗

今月のトピックス

「プラント事故に学ぶ 効率化の代償」

今回は日経ものづくり2013年6月号の記事からご紹介します。

2011年11月の東ソー南洋事業所、2012年4月の三井化学岩国大竹事業所、2012年9月の日本触媒姫路製造所と、相次いで発生した化学プラントでの重大事故。なぜ重大事故は続いたのか。原因を追究していくと、化学プラントだけにはとどまらない、ものづくりの現場に共通の問題が浮かび上がってくる。



相次ぐ重大事故に、化学メーカーは危機感を募らせている。発生した3件の重大事故は、いずれも普段は行わない作業(非定常作業)の際に起きている。

トラブルやいつもとは違う非定常作業に直面したとき、自動化された設備とマニュアルだけでは乗り切れない場合がある。そんなときこそ経験に裏打ちされた豊富な知識を総動員して臨機応変に事に当たる力、「現場力」が求められる。ところが、今その非定常時を乗り切る力が弱まっている。相次ぐ化学プラントの事故はその象徴だ。

現場力の低下は、化学業界に限った現象ではない。日本の製造業が共通して抱える課題だ。ベテラン技術者・技能者の保有するノウハウや技術、知識といった暗黙知をどう顕在化させて継承するのか、沈みゆく現場力をどうやって維持、回復させるかに頭を悩ませているものづくり企業は多い。

現場力が失われているのは、ベテラン作業員の持っていたノウハウや知見が継承されず、若手が現場で経験を積む機会が少なくなっているからだ。そこで、それらノウハウや知識、技能を再び取り戻そうと、化学業界は体験重視の教育に力を入れている。それとともに、現場力再構築に向けて今の現場力を客観的に把握しようとする動きも始まった。

三井化学の技術研修センター(千葉県茂原市)では、同社の岩国大竹工場(山口県・和木町)のレゾルシン製造プラントでの事故で破裂したタンクの残骸を屋外の一角に展示していました。この他、屋内には事故を報じた新聞記事なども多数掲示されており、事故の痛みを忘れまいとする姿勢が印象的でした。

同社は、「安全」という観点からは同研修センターでの教育の充実だけでなく、他にもさまざまな取り組みを行なおうとしています。その1つが組織の見直しです。具体的には、組織を小さくして課長クラスがより現場に目配りできるようにしようとしています。課の規模を縮小し、課長が課員全員の様子を把握できるようにしようとしているのです。こうして現場を掌握することで、人的ミスを防げると期待しています。

製造課長や係長が行っていた間接業務を可能な範囲で減らす方針も打ち出しています。課長・係長は、プラント操業の面倒だけではなく、本社との折衝や業務報告、小集団活動等さまざまな付帯業務が降りかかります。そこで、こうした折衝・調整業務は本社などで引き受けることとし、現場は操業に集中できるようにしようとしています。こうした取り組みも広い意味での「現場力の復興」と言えるでしょう。

弊社の電源でも重大な品質事故が立て続けに発生し、お客様に大変なご迷惑をおかけしてしまいました。

今は相次いだ事故に各自強い危機感を募らせていますが、事故は忘れたころにやってきます。この危機感を忘れることなく、もう1レベル強い現場力を付けられるような取り組みを行い、お客様の満足を得られるようにならなければいけないと感じました。(品証 林)



三井化学の技術研修センターの一面に掲示されている事故関連の記事



屋外に展示されている事故の残骸

今月の品質状況

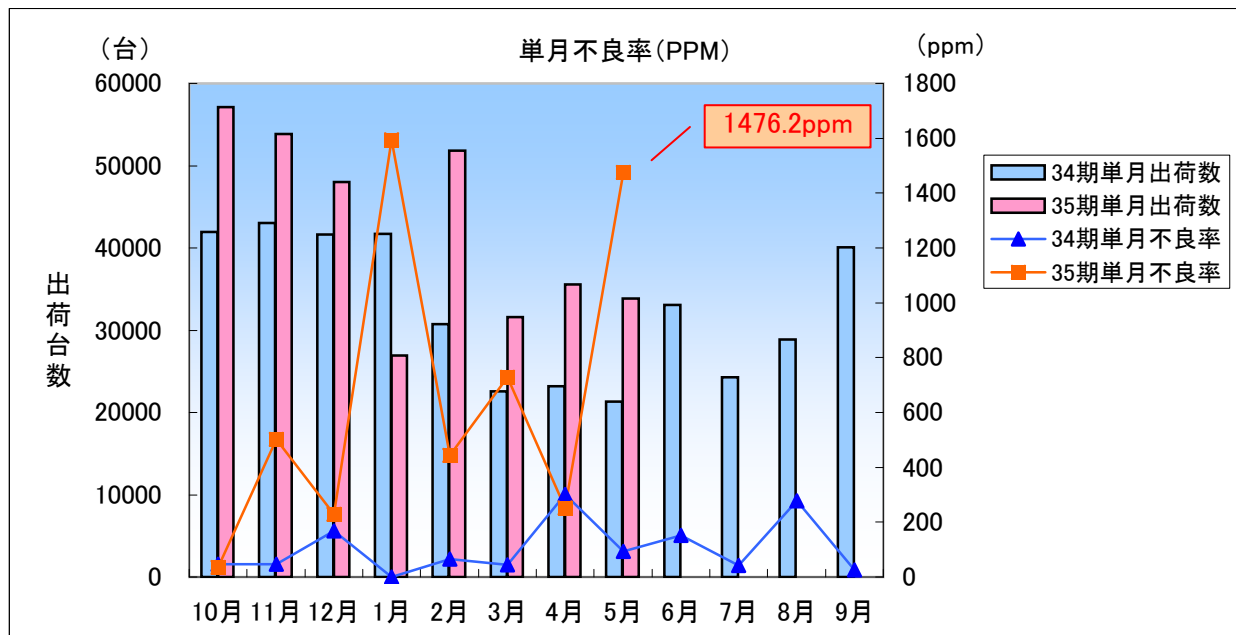
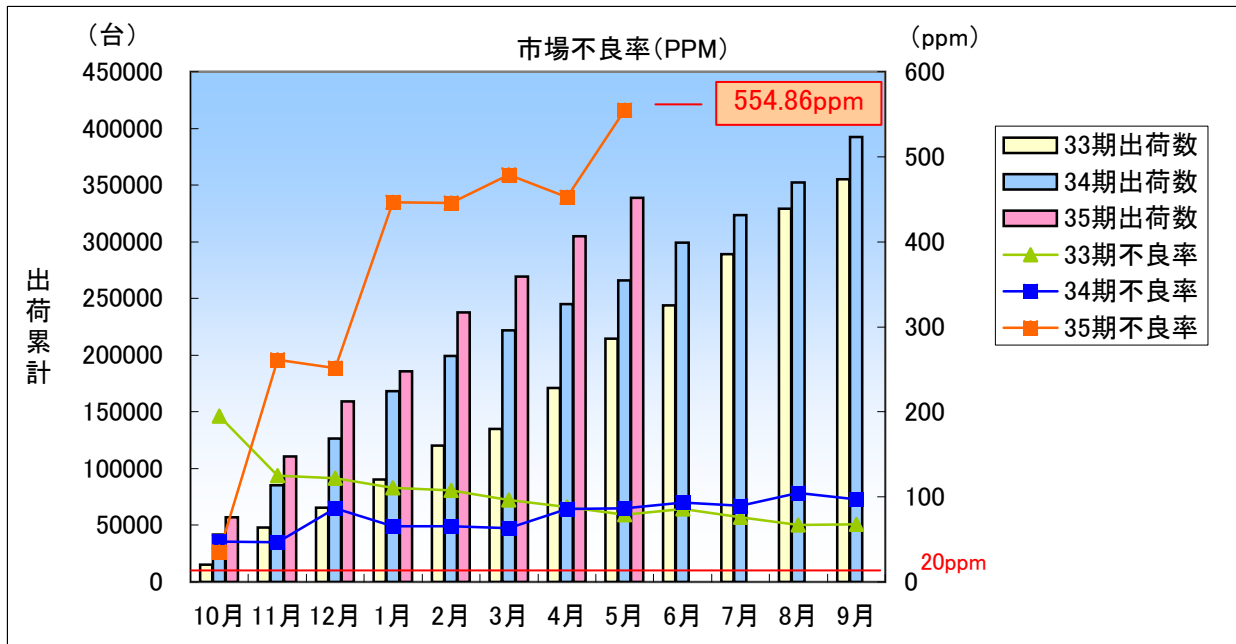
35期の旗印

納入不良率 目標……20ppm

35期の累計不良率は**554.86ppm**です。

MOSFET部品不良は累計で132件。

製造不良の不良率は 38.42ppm です。水際で防止できる製造不良については目標の20ppm以下のクリアを目指します。

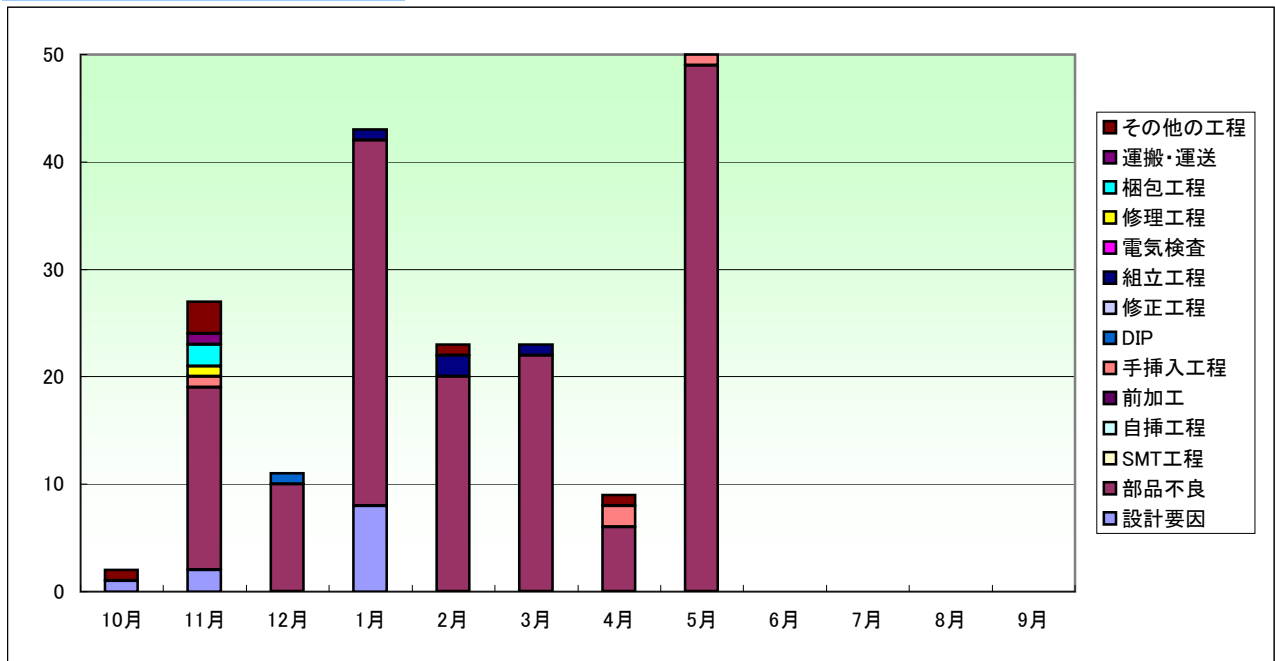


5月は単月不良発生率は9件発生で 1476.2ppm です。
 MOSFETの不良が47件と大量に発生しました。今期の不良にはこのMOSFET以外にも多数の部品不良が含まれていますが、本当に設計的な要因はないのか、再度調査をして行きます。

品質状況詳細

原因別、並びに工程別市場不良発生状況

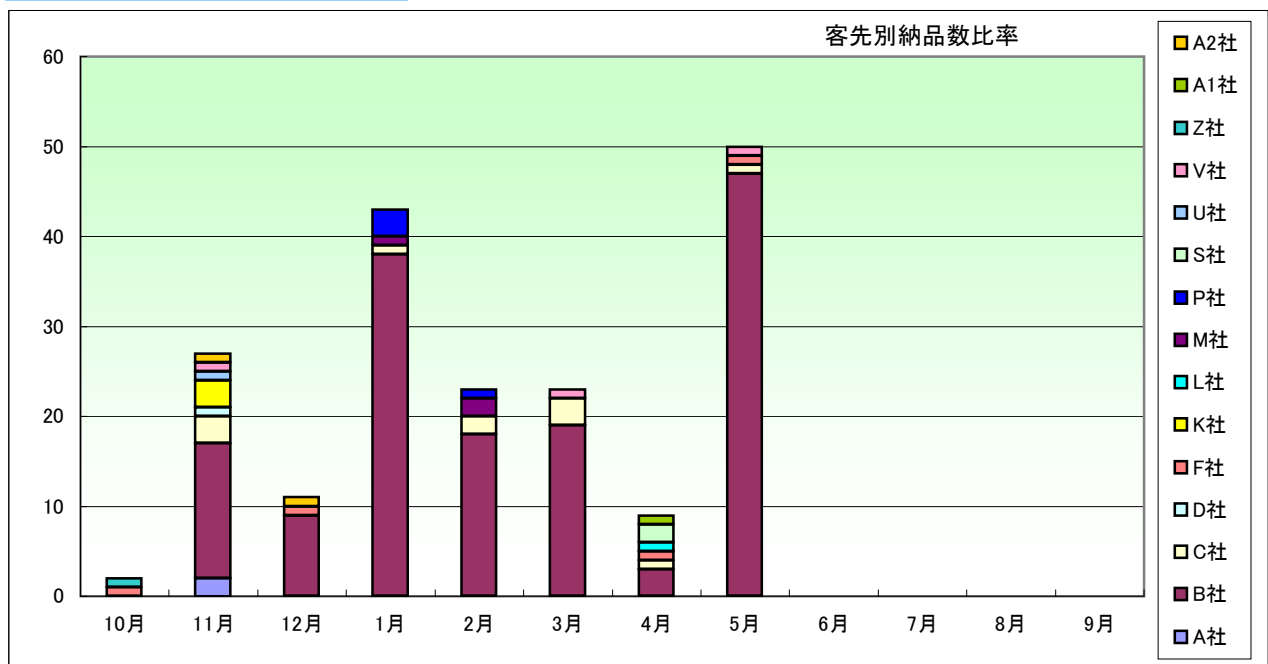
工程別不具合



5月の工程別不具合

部品不良 49件、手挿入不良 1件 です。
 今期の工程別不具合の累計は以下となります。
 部品不良 158件、製造不良 13件、設計不良 11件、その他 6件 合計188件

客先別不具合



客先別累計不良発生率

B社	149件/35,100台 (4245ppm)	S社	2件/1,250台 (1600ppm)
M社	3件/1,000台 (3000ppm)	P社	4件/3,767台 (1062ppm)
L社	1件/600台 (1667ppm)	U社	1件/1,000台 (1000ppm)

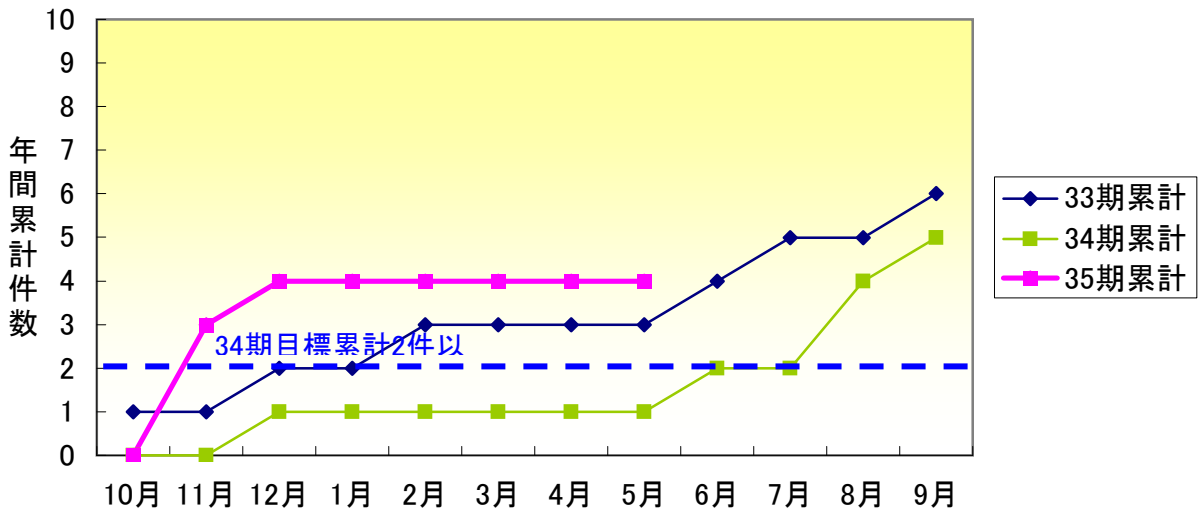
品質状況詳細

クレーム発生状況

クレーム発生推移

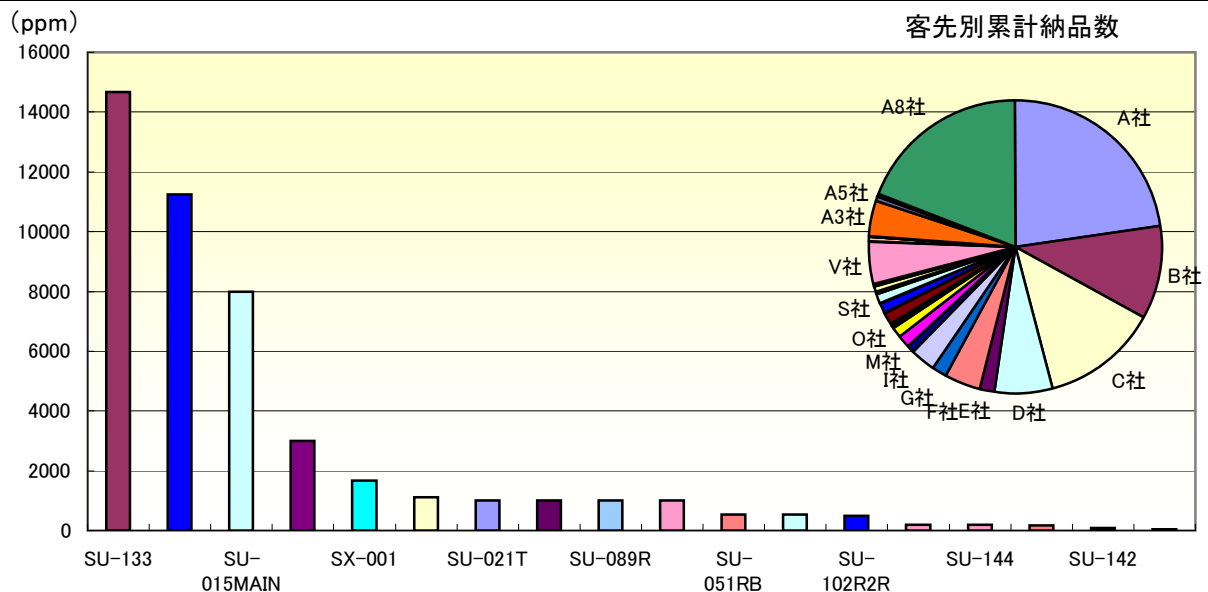
「クレーム」の定義: 当社製品がエンドユーザー様にて使用中に
当社の責任による原因で不具合が発生し、見直し・改修の場合

対前年度クレーム件数推移(35期)



5月 新たなクレーム不良は発生していません。

機種別累計不良率



機種別累計不良率(不良率ワースト5)

順位	変動	機種	客先	不良数/納品数	単機種不良率
①	↑	SU-133	(B社)	147件/10,020台	14671ppm
②	↓	SU-102R2L	(P社)	3件/267台	11236ppm
③	→	SU-015	(S社)	2件/250台	8000ppm
④	↓	SU-082SE	(M社)	3件/10,00台	3000ppm
⑤	↓	SX-001	(L社)	1件/600台	1667ppm